

製本のススメ

Vol. 191

関東も梅雨入りしましたね。オリンピックを目前に、一向に収束しないコロナウイルス。ワクチン接種も始まりましたが、まだまだ不安の解消には繋がりませんね。マスクをせずに笑いあえるのは何時でしょうか。

今回も**製本工程から見た造本企画の注意点**のシリーズ④です

今回は「紙の厚み」についてお話させていただきます。最近 記念誌の相談・依頼が多くなりました。80ページ以上もあれば見栄えも良い冊子になりますがページ数が多いと版数も増え費用も増えます。その為 内容を精査して総ページ数を減らすという事になりますが、全体のボリューム感は保ちたい。そこで本文用紙を厚くするという手段になります。無線綴じの場合（本のサイズにもよりますが）**アート・コート系ならば四六換算で135k程度まで**とってください（但しアジロ対応のみ）ペラ丁合では135kは何とも言えません。上質系と違い紙が硬く、しなやかに曲がりにくい為冊子の喉元に負荷がかかり、壊れの原因になりやすいのです。紙1枚当たり0.15ミリまでの厚みと考える方が安全かもしれません。50ページ程度の冊子で紙の厚みが0.15ミリとすると、冊子の束厚は、約4ミリ程度です。これならば上製本にも対応でき、見栄えの良い記念誌ができます。

記念誌とは用途が違いますが、写真集やアルバムのような場合には見開きが多く、**合紙加工**が向いています。この場合には逆にページ数は少ない方が良く12pや20pでも、片面印刷のために折丁数が稼げるため束厚も増え、また**紙は厚い方が良く200k程度が向いています。**

いずれにせよ紙の厚みは造本にとって極めて重要な物ですので、安易に厚い用紙を選択するべきではありません。薄い冊子の場合には無線綴じに拘らず中綴じ加工にする・カバーを掛けてみるなどのデザインでグレード感を上げてみるのも方法ですね。



Teabreak

昨年は国民にコロナ対策の支援金で個人や企業に助成金の支給がありました。が今年はゼロ円です。長引くコロナの為 昨年よりも厳しい状態になっている所も多く、いち早く経済の回復が見込まれないと瀕死状態です。最近テレワークの指導が頻繁に入りますが、零細製造業でどうやってテレワークできるのでしょうか？電話する先を間違っていますね。

弊社HPは www.isekiseihon.com

facebookは「井関製本の日々」

by (株) 井関製本